

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	<b>11</b>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<b>2</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<b>6</b>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<b>11</b>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	4472100413
法人名	社会福祉法人 安岐の郷
事業所名	さわやかクラブ鈴鳴荘
訪問調査日	平成20年11月25日
評価確定日	平成21年 1月 8日
評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月7日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4472100413
法人名	社会福祉法人 安岐の郷
事業所名	さわやかクラブ鈴鳴荘
所在地	国東市安岐町下山口58番地 (電話)0978-67-2626

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成20年11月25日	評価確定日	平成21年1月8日

## 【情報提供票より】 (平成20年11月6日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成13年4月1日				
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人		
職員数	7 人	常勤	6 人, 非常勤	1 人, 常勤換算	6 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り	
	1 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷金	有 ( 円 )	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円 )	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,200 円		

### (4) 利用者の概要 (平成20年11月6日現在)

利用者人数	8 名	男性	0 名	女性	8 名	
要介護1	1 名	要介護2	1 名			
要介護3	4 名	要介護4	2 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	86.5 歳	最低	82 歳	最高	89 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	国東市民病院
---------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

- 1 周囲に自然も多く静かな環境で、隣接地のゲートボール場が地域の人との交流の場となっている。事業所だよりを利用者と一緒に近隣に配り地域との交流を深めている。
- 2 法人内にある託児所の子供たちと日常的に交流している。
- 3 職員がチームワークを大切にしながら利用者本位のケアにつとめ、利用者が落ち着いた雰囲気の中で暮らしている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)	前回評価での改善課題はない。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	職員全員で話し合いながら自己評価に取り組み、その中から出された改善点について改善計画シートを作成し取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)	地区会長、民生委員児童委員、老人会会長、ボランティア、市職員、家族、職員のメンバーで2ヶ月に1回開催し、現況報告や評価結果を報告している。メンバーの意見を活かして盆踊りでバザーに参加したり、メンバーが事業所の取り組みを学校に話してくれるなど橋渡し役になってもらっている。会議メンバーにボランティアや避難訓練に参加してもらい、実情を知ってもらい取り組みも行っている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)	家族アンケートを年1回行い、集計結果を分析し会議で話し合い運営に反映している。運営推進会議に毎回3~4名ずつ、交代で参加して意見を出してもらっている。第三者委員会に相談する機会を設けている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	隣接のゲートボール場を利用する地域の人が立ち寄ってくれたり声を掛け合うなどの交流がある。「さわやか便り」を利用者と一緒に近隣に配り、交流を深めている。地域の行事に積極的に参加している。

## 2. 評価結果(詳細)

(   部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域に愛され」「地域に信頼され」「地域に開かれた」高齢者福祉のパイオニアを目指すという法人の理念を元にして、「常に尊敬の念を持って利用者に接し、思いや願いに寄り添い家庭的な雰囲気の中で穏やかに暮らせるホームを目指します」という事業所独自の理念を職員全員で話し合い作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を朝礼で唱和し、理念の共有につとめている。職員は常に理念を念頭においてケアにつとめている。3年に1度、理念の達成度を検討し見つけなおす機会を設けている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○家族等への報告や地域への理念の浸透 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の人たちがゲートボールに誘ってくれたり、事業所に立ち寄ってくれるなど交流がある。事業所の様子を載せた「さわやか便り」を利用者と一緒に近隣に配っている。地域のお祭や運動会、グリーンツーリズム、空港ロビーコンサートなど地域行事に積極的に参加し地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で話し合いながら自己評価に取り組んでいる。職員が評価をサービスを見つめなおす機会ととらえ、自己評価で出した改善点について改善計画シートを作成し取り組んでいる。外部評価のほかにも年2回、自己評価とISOの内部監査に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議では、盆踊り大会でのバザーの提案や学校との交流の橋渡しについて意見等をいただいている。外部評価の結果も報告し、意見をもらいサービス向上に活かしている。年1回は全利用者が会議に参加する。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市民検診やふるさとまつりなどの行事に参加し、実情を知ってもらい取り組みを行っている。これまでの取り組みにより、国体観戦の際には市職員の積極的な協力も得られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月ごとに発行する「さわやか便り」で利用者の日々の様子や活動、職員の異動などについて知らせている。金銭管理は面会の時など年2回以上、報告しサインをいただいている。個々の近況報告は毎月、電話で連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員に相談する機会を設けている。家族アンケートを年1回行い、結果について会議で話し合っている。運営推進会議に参加をお願いし、意見をいただいている。出された意見について会議で検討し改善に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	定期異動は最小限にとどめ、引継ぎ期間も約1ヶ月半ほど取り、異動によるダメージを抑える配慮をしている。同法人の特別養護老人ホーム職員と日常的に交流があり職員と馴染みの関係が築かれている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じた研修は年間計画に添って行われている。法人内外の勉強会に加え資格取得のための勉強会も行っている。新たにグループホームに配属された職員にはチェックリストに基づいた4週間の研修を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大分県老人福祉施設協議会グループホーム専門委員会の交流学習会(2ヶ月に1回開催)に参加している。他事業所との職員交換研修を行っている。今後は県外の施設見学も計画中である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	デイサービスやショートステイを利用しながら、その間に音楽療法やレクリエーションを合同で行ったり、グループホームに遊びに来てもらう機会を作って、馴染みの関係を作りながらのサービス開始となっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の思いや願いを日々の中で知るように努め、利用者の気持ちに寄り添っている。利用者から魚のさばき方を教わったり、浴衣の着付けをお願いするなど職員が利用者から教わる場面もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中でゆっくりと話を聞きながら、意向の把握に努め、実践に向けて支援を行っている。アセスメントシートに病歴、生活歴、自宅での生活の様子など詳しく書き込み、日々の暮らしの中で知れた新しい情報を書き加え共有に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の要望を聞きながら、全職員で話し合い、利用者の持てる力を発揮できるような介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月1回、すべての利用者のモニタリングを全職員で行い、家族の意見や要望を取り入れて3ヶ月ごとに、計画の見直しを行っている。状況に応じて見直しが必要な場合はその都度見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助や病院への送迎、買い物やドライブなど、利用者の希望に添って柔軟に対応している。月に1回は外食に行き、好みのものを食べる等の支援を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医とは、情報のやりとりを通して関係を築き、24時間の対応を快く引き受けていただいている。家族とは受診結果について情報を共有している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応について契約時に家族に説明し、家族の意向を聞いている。看取りが必要な場合、「看取りについての同意書」を取り交わしている。状態に合わせて意向を話し合い、経過を記録し職員全員で勉強会や会議を行い情報の共有を図っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人の個人情報保護規程に沿った勉強会を行い、誓約書をとっている。利用者への言葉使いが誇りを傷つけたりプライバシーを損ねることがないように、職員同士で互いに注意し合っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事などへの参加は本人の希望を尊重し、起床時間など一人ひとりの生活リズムに合わせて支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	材料の買出し、調理等を利用者と一緒に行っている。職員1名が同じ物を食べ他の職員は、弁当持参で一緒にテーブルを囲んでいる。全員が食べ終わるまで片付けをせず、ゆっくりと会話を楽しむ時間をつくっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望する時間に毎日入浴できる準備をしている。入浴を拒む人には時間や日を変えての声かけ、仲の良い人との入浴、音楽をかけるなどの工夫をしている。気分転換に別府温泉へ出かけるなどの支援を行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理、野菜作り、いけばな、習字、読書、手芸の好きな人がふるさとまつりの作品展に出展するなど、利用者それぞれの生活歴や希望に添った支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には隣接のゲートボール場や法人の敷地内を散歩している。個々の希望にそって買い物やドライブにもでかけている。月1回は気分転換をかねて外食に出掛けている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないケアに努めている。一時的に施錠した場合は理由、時間などを記録し分析、検討している。利用者が外に出たくなる場面や理由について、職員全体で話し合い検討している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月1回、時間帯を変え避難訓練を実施している。地域の消防署や消防団との連携もあり一緒に消火訓練を行っている。運営推進会議メンバーが避難訓練に参加する機会を設け、地域の人々にも協力を得られるよう働きかけている。3日分の災害備蓄を準備している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの好みのもの等を把握している。一日の栄養摂取量(約1400kcal)、水分摂取量(約1600cc)を大まかに把握し、毎日の食事摂取量を記録している。管理栄養士に半年に1回、チェックしアドバイスをもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに続く和室には掘り炬燵があり、馴染みの物や掛け軸を飾っている。廊下に足踏みミシンや黒電話など生活感のあるものを配置している。廊下や庭、テラスにベンチを置き、好みの場所でくつろげる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	陽当たりの良い居室には、家族からの手紙や写真などを飾っている。利用者の気持ちに配慮しながら、それぞれの状況に合わせて馴染みの家具やソファを配置し居心地の良さを工夫している。		



# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	さわやかクラブ 鈴鳴荘
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	大分県国東市安岐町下山口58番地
記入者名 (管理者)	小林 信介
記入日	平成 20年 11 月 6 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の品質目標が「地域に愛され」「地域に信頼され」「地域に開かれた」高齢者福祉のパイオニアを目指すとなっており、当事業所もその実現に取り組んでいる。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の理念は朝礼時職員が唱和しており理念の共有に努めている。老人会や婦人部活動などで認知症の勉強会などをさせていただき、地域の方から認められる存在にはなっている。地域行事(盆踊り・スポーツ大会など)に職員が積極的に参加している。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族会で中・長期計画を配布、その中で理念や地域での生活の大切さを説明している。また、鈴鳴荘だよりは国東市全戸に配布とともに、国東市安岐総合支所にも置いていただいている。さわやか便りをご家族や運営推進会議の皆様、また本年度より地域の各戸へ配布し生活の様子をお伝えしている。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣接しているゲートボール場の人たちと声をかけ合ったり、休憩時間にお茶を出したり、近くの保育園に訪問し一緒に遊んだりしている。ゲートボールの方々とは顔見知りになり、最近ではゲートボールに誘ってくださるなど交流が活発になっている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事や学校の行事には積極的に参加している。また、外出の機会を多く持ち地域での生活を楽しんでいただいている。近隣の皆様にはご利用者が自らさわやか便りを一軒一軒声かけしながら配布し、なじみの関係を作っていくようになってきている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	老人会や婦人会活動に施設長が認知症についてや認知症予防について講演を行い喜んでいただいた。小規模多機能の事業の準備に先立ち、職員が安岐町の各戸を回り、生活に不自由している点がないかなど聞き取り調査に回っている。その結果をもとに地域での支援の仕方を模索中である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎年2回自己評価を実施し改善に取り組んでいる。また年2回ISOの内部監査と年1回のISO審査機関より審査を受け継続的改善に努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価後は自己評価表を見ていただきながら報告し、評価もいただいている。外部評価結果や日常生活を報告し、評価意見を受け、ケアに生かしている。また、消防訓練も8月26日の運営推進会議後に委員さんと一緒に行った。今年度よりボランティアさんも会議に参加されるようになり活発なご意見をいただいている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎年市民健診を受けたり、選挙の折には地域の選挙会場に出向いたりしている。地域観光課の方からは行事などの提供をいただいたりしながら地域住民として普通の暮らしを支援してもらっている。特に今年は大分国体の開催があり、アストくにさきでのウェイトリフティングでは市役所の職員の協力をいただき観戦できた経緯がある。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修に参加し勉強しているが、今のところ対象者はいない。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ISOマニュアルに身体拘束についての規定があり、虐待についても述べられている。リスクマネジメント委員会でも毎回取り上げられ意識の向上につなげている。研修で高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会や新聞等で情報を得ることもあり、事業所内での虐待を見過ごさないようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書にそって説明している。状態変化により契約解除に至る場合は家族に対処方針を相談している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員の方にご利用者の相談にのってもらっている。苦情が出たときには速やかに対応し、第三者、ご本人、ご家族へ報告している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2か月に一度のさわやか便りで日々の生活の様子や職員の異動等を知らせている。定期的に金銭出納帳を確認していただき印鑑も頂いている。心身状況に変化がするときには都度個別に報告をしている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年12月に家族アンケートをとりサービスに反映させるようにしている。ご意見箱を玄関に設置している。また各苦情受付窓口の電話番号を書いた張り紙をグループホーム玄関に張り出している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長・事務長・管理者がグループホーム会議に出席し、情報の共有と職員の意見を聞く機会を設け反映させている。また、責任者会議からの重要案件は職員に下ろされ話し合いの機会を設けている。さらに一年に一度職員にアンケートを実施し意見の吸い上げに努めている。ハッピーボックス・ブラックボックスを設け職員や地域からの声を吸い上げ職員に周知している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ご利用者の状況に合わせ、都度勤務の見直しを行っている。職員の研修や緊急時の対応等やむを得ない場合は他部署より協力を依頼している。外出の際にはボランティアの方の協力をいただいている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の過度のストレスを回避するため定期異動を行うとの法人の方針があるが、引継ぎの期間を取りスムーズに移行出来る様配慮している。GHのご利用者の特養職員との交流は頻繁にあり顔なじみになっており、これまで異動に関して問題は起こっていない。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>教育訓練規定の中で勤務年数や職責に応じた研修を計画している。また、大分県老協主催のGH職員交流学習会には順番で参加しその結果をグループホーム会議で報告し情報の共有をしている。実務に支障をきたさないよう順次外部研修機会を確保している。また、法人で資格試験のための勉強会も行っており職員の自己啓発に努めている。今年度は毎週火曜日に介護技術勉強会を法人主催で行い、全職員が参加している。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>大分県老協所属のGH職員との交流学習会には必ず参加し、介護の質の向上に向けての話し合いを持っている。悩みの共有もでき、職員の新たな力となっている。10月には他のGH職員との職員交換研修を行い自GHのケアの見直しにつながっている。職員も良い刺激を受けている。この交換研修は今後も継続予定である。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>定期的な部署異動を実施している。スポーツ委員会は毎週火曜日にスポーツを企画しリフレッシュできるようにしている。職員の参加状況も良い。特に町の綱引き選手権大会女子の部では3連覇を成し遂げ大いに盛り上がった。毎週水曜日をノー残業デーとして取り組み業務の見直しにもつながっている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>毎年11月に職員に自己点検表を渡し、今期の反省と来期の抱負(資格取得など)を聞いている。本人の希望を基にした研修に参加できるよう配慮している。また、資格取得への支援を行い、資格手当も支給している。また、年2回の職員健康診断も実施している。</p>	
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>昨年度は従来型特養のショートステイご利用から、GHの入所であり、ご家族やケアマネとの情報交換は充分行われた。ただ、この方の場合も認知症という特性上、ご本人が希望されての入所ではないため、入所についての希望等はお聞きしなかった。しかし、ご本人の困っていることやしたいことなどのお話は十分受け止め入所はスムーズに行われた。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所される前にご家族が施設見学をされる場合がほとんどである。その時から利用にいたるまでご家族の心情や求めていることを聞くようにしている。また、他事業所サービススタッフからも情報を入れながらご家族の状況の把握に努めている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当GHが満床のことが多く、その場合は他のGHへの照会やショートステイ、デイサービスを使いながらのサービスの提供などその方にとって一番良い方法をアドバイスするようにしている。実際にショート・デイ・ヘルパーを使いながら当GHが空くのを待って入所された方が6名おられる。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	実際にはご本人が納得して入所することは稀である。併設のデイサービスやショートステイを利用しながらグループホームへ移る方が多いので職員となじみの関係になっていることが多くスムーズに移行できている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	地域の田植えや稲刈り参加やGH内では発砲スチロールでの田植え、日常的に料理や畑仕事、洗濯たたみやご自分の居室の掃除には皆さん参加していただいている。会話の中から本人の思いや願いを知るよう努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時等家族との情報交換を密に行うよう努めている。行事で外出する際にはご家族にも参加の呼びかけをし、極力参加していただくようにしている。またお正月には数時間の帰宅でも良いので、実現するようお願いしている。日頃からご家族には小さなことでも連絡を取り合うようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	2か月に1度発行するさわやか便りで日ごろの生活をお知らせしている。(GH内にも掲示している)また、変化があった場合にはご家族に連絡し状況をお伝えしている。当施設のご家族は面会に来られる方も多いが、さらに外出や外泊で家族と一緒に過ごすことを勧めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の住んでいた家までドライブしたり、以前住んでいた地域のお祭りに参加し知人に会えるようにしたり、知人に会いに行く支援をしたりしている。また、GH内の方が入院された時にはご利用者とともにお見舞いに行きお互いに関係が継続できるよう支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	協同で取り組める作業への声かけをしている(パズル、トランプ、おやつ作り等)。ドライブ時等2~3人で出かけ関係を深める働きかけをしている。また、一緒に入浴するよう働きかけたり、居室にお茶を運んでお話しできるようにしたり働きかけをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	重度化し従来型特養や新型特養に入所された方がおられる。どちらもGH職員が頻繁に顔を出し、声かけを行ったり調子の良い時にはGHにお越しいただき皆さんと交流できるようにしている。また特養職員にも水分摂取量や状態など詳細に引継ぎを行い情報を共有している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に本人の思いの把握に努め、その思いに沿ってプランを立て、実現に向けて支援している。毎日の生活の中でゆっくり話を聞く時間を取るよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人との最初の聞き取りの段階から生活歴や嗜好などの把握に努め、ケアプランにも反映させている。また、面会者などにも話を聞き、新しい気づき等はアセスメントシートに加筆している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	それぞれのご利用者の生活リズムを理解している。出来ることに注目しそれをプランに入れて支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は利用者や家族の要望を聞きながら(日常の会話の中からも)立てている。本人の願いに沿い、持てる力を発揮できるよう立案している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	原則3ヶ月ごとの見直しを行っている。毎月のモニタリングやグループホーム会議で変化のあったご利用者の状況を話し合っている。緊急に変更の必要がある場合は、関係者と相談しながら新たな計画を立て評価もしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録表に介護計画実施確認欄を設けている。日々の暮らしの様子、本人の言葉、受診情報等記録し必要情報を共有している。実施状況や利用者の変化を把握することで介護計画の見直しに活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族の状況に合わせ通院介助や送迎等必要な支援は柔軟に対応している。また、配食、移送サービスは常時利用できる。デイの受け入れ実績はないがデイサービスの方々との交流はドライブや観劇など一緒に出かけるなど頻繁に行っている。		
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	外出支援ボランティア、フットケアボランティア、美容ボランティア、活花ボランティア等の支援を受けている。地域消防署や地域消防団が消火訓練に来てくれる。グリーンツーリズムの方と毎年田植え、稲刈りをしている。小学校・幼稚園との交流も頻繁に行っている。	○	保育園との交流も進めるよに計画している。10月18日の保育園の運動会には参加させていただいた。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	同事業所のデイサービスとの交流や配食サービスの提供などはある。他事業所への本人、ご家族の希望は今のところない。あった場合には速やかに対応していきたい。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現状ではその必要のあるご利用者はいないので協働の実績はない。しかし、運営推進会議に行政の方に参加いただいているので現状のご理解はいただいている。生活保護の関係で福祉事務所の方との連携や入所状況の連絡等で地域包括支援センターとの連携はある。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には家族同行の受診となっているが、不可能な場合は職員が代行している。訪問診療のケースもあり、複数の医療機関と関係を築いている。受診結果の情報は共有している。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録物は記録後すぐに人目に触れないところにしまっている。法人として「個人情報保護規定」があり各人に周知を図っている。職員の言葉使いは気が付いた場合はお互いが注意するような環境に努めている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	「飲み物は何にしますか?」「今日のメニューは何にしますか?」「どちらにしますか?」「行きたいところがありますか?」等言葉かけをし選択の機会提供を心がけている。買い物に出かけたときは欲しいものを選んでもらえるよう声かけしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時刻、就床時刻はそれぞれのリズムに合わせている。行事への参加や日課もできるだけ本人の希望を尊重している。他部署との連携をとり、見守りをお願いしてGH外での生活支援も行っている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人のなじみの床屋や美容院の利用を支援している。また、毎月美容ボランティアが来てくれ利用される方もいる。外出時はおしゃれや化粧を楽しんでいる。朝の身づくろいはほとんどの方が声かけ見守り支援が必要である。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	材料の買出しには必ず同行していただいている。料理の際には「何か手伝おうか?」と声をかけてくれる利用者も多い。また声かけすれば快く引き受けてもらえる。職員も一人は検食、後はお弁当持参と一緒に食事を摂りながら食べ方の混乱や食べこぼしのサポートをさりげなく行っている。お弁当を注文しお弁当持ちで出かけることもある。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	カルピス、コーヒー、ココア、紅茶等いろいろな飲み物を用意して楽しんでもらっている。皆さん菓子類は大好きであるが、カロリーオーバーにならない範囲で楽しんでいる。(現在はたばこ・お酒を嗜まれる方はおられない)	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	全員尿意があり自分でトイレに行けるが、たまに腹圧失禁等もあるため、個々に合わせてトレーニングパンツや尿取りパットを使用している。立位介助の必要な方には付き添っている。排泄チェック表を活用し、さりげない声かけ誘導をしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる準備をして声かけしている。気分の乗らない方には時間を変え日を変え声かけしている。仲の良い方との入浴を勧めたり音楽をかけて入浴を楽しんでいただいたりしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	7時過ぎには眠くなって就床される方、眠る前の読書を楽しまれる方、9時ころまでテレビを見る方と多様である。眠れずに起きてきて職員と話したり、お茶を飲んだりした後、居室へ戻られることもある。日中居室で休まれたり和室や廊下ソファでくつろいだりされている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事づくりや花の水やり、掃除はお願いすると快く行ってくださる。気候の良い日は草取りをしてくださる方もいる。庭には新しく畑を増やし夏野菜づくりを行った。また、個々にあった生花や習字・読書・手芸・おやつ作り等行ったりいろいろな行事に参加したり外食や荘外散歩に出かけたりすることも良い気分転換になっている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来る方には買い物に出かけたり、床屋に出かけたりする時や毎週木曜日にパン屋さんが来るので本人に支払ってもらっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日はゲートボール場を回って帰るのが散歩コースとなっている。個々に買い物やドライブに出かけたり幼稚園に出かけたりしている。学校行事や地域行事にも参加している。また、月一回以上外食に出かけるようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お芝居やサーカス・懐かしい映画などが近くに来た場合などは希望を聞き積極的に出かけている。実家が近い方は、希望のあった時は家まで帰れるよう支援している。他部署との合同で遠くのまつりや花見などに出かけることも多い。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	2ヶ所の電話を必要に応じて使い分けてもらっている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は決めておらずいつでも訪ねていただいている。来訪時にはその方の居室で過ごしていただくことが多いが、他利用者との交流も歓迎している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束の内容と弊害を認識しており、日々の介護の中で利用者の尊厳を傷つける言動がなかったか点検し合っている。ISOの中にも「拘束禁止」項目があり毎日のケアの中に生かしている。毎月のリスクマネジメント委員会でも話し合っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	一昨年に続き開錠に取り組み、日勤帯は開錠している。対応困難時のみ施錠し、毎月開錠率を出している。庭へ出る方は遠目の見守り、また他部署にお願いする等して対応している。出かける方は職員がそっと付いて歩いている。3年に及ぶ取り組みで開場時間は増加している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	台所から目の届かない玄関はセンサーをつけている。トイレ介助の必要な方がいるのでトイレ開閉時鈴が鳴るよう工夫している。夜間は定時の見回りをしている。しかし、これまで3回、日中おひとりで近くを散歩されているところを地域の方からの通報で救われたことがあり、職員の増員と勤務の見直しにつながった。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬や洗剤は施錠して保管している。包丁は使用後速やかに所定の場所(流しのドア裏)にしまい施錠している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット報告から予想される事故の防止策を具体的に検討し実施している。万が一の事故の場合は速やかに報告書を作成し家族への報告説明を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命法の学習や訓練を日本赤十字社の方に来ていただき定期的に行っている。緊急時の対応マニュアルもある。また、毎週火曜日に介護技術勉強会を実施しており、急変時の対応方法などNsより指導がある。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月法人で火災避難訓練を実施している。地域消防署と連携しての消火訓練も実施している。地区の消防団の方も来てくださっている。緊急連絡網にも地区の方が入っている。食料飲料水も3日分備蓄している。8月26日には運営推進会議後に委員の方々と防災訓練を行った。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	プラン作成時にもリスクを含め現状説明をし家族の意向を聞いている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常に顔色や様子に注意し異変の早期発見に努めている。変化については記録、報告し必要時には医療につなげている。夜間の状態変化では看護師に連絡し、すぐに来荘し病院受診する等素早い対応に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は本人に手渡しし服薬確認している。処方や用量が変更された場合、状態変化があった場合は記録をとり、かかりつけ医に報告している。(処方された内服薬の説明書をすぐ確認できるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食材は野菜、果物、海藻。きのこ類、ヨーグルトを毎日摂っている。散歩、家事活動等体を動かす働きかけをしている。現在1名が便秘薬を使用している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後歯磨きを声かけ支援している。週2回ポリデント消毒をしている。月に1度嘱託歯科医師の所から歯科衛生士が来て口腔内の状態と義歯の状態をチェックし、指導していただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具を持っていくことはご本人にとっては帰る場所がなくなることの意味するものである。ご自分の家具が運ばれたとき「家族に捨てられた」と号泣されたことがあり、それ以後お部屋の環境はご本人の状況を見て整えるようにしている。ご自分の作品などは飾るようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝窓を開け換気している(気候の良い日は一日開けている)。その後も見回りで気になるときは換気している。外気との温度差に留意しながら室温調整している。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体機能の変化にあわせ手すりの設置や浴室のイス・物干し竿の高さの調整などを行っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	それぞれ違う暖簾をかけるなど工夫をしているが間違いによる混乱がたびたびある。早めの声かけで対応している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に花や野菜を植え楽しみながら世話をしている。玄関先や庭のベンチで涼んだり日向ぼっこをしたり食事会をしたりして気分転換できる。		

## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

法人の方針である『地域に愛され・地域に信頼され・地域に開かれた』存在であるためにさまざまな取り組みをしている。まずはご利用者も職員も地域に出て行くことを目標にしている。一番支えてくださる安岐町の方々との交流を第一に考え、買い物や外食は安岐町のお店に行くようにしている。そのため、顔なじみができてきており、お店のスタッフの方が駐車場まで出迎えてくださり、ご利用者を手引きサポートしてくださるようになってきている。少しずつであるが、地域の方々のご理解が得られてきていると感じている。それらは昨年から継続して行っているゲートボールの方々、幼稚園児との交流などを通じて、その方々から地域の方々へとロコミでご理解が深まったものであると確信している。職員による、地域の盆踊り大会の参加や屋台の出店、老人クラブ総会でのひょっとこ隊出演、地域のスポーツ大会参加など、職員が地域に根ざした活動をしていることも地域のご理解をいただく上で大いに貢献している。